

東遊園地 加納町6丁目



フラワーロード沿い、市役所のすぐ南に広がる公園が東遊園地である。この場所がかつて、居留地と筋を隔てて東隣となっており、旧生田川の堤防敷になっていた。この堤防敷が1875（明治8）年に「内外人公園」として発足し、1922（大正11）年から「東遊園地」と呼ばれるようになった。この名は居留地内の西の公園に対する東の公園ということで付けられた。この公園で

外国人が、ラグビー、ホッケー、サッカー、テニス、野球、クリケットなどのスポーツを行ない、やがて日本人にも普及していった。いわば、この地は日本の近代スポーツ発祥の地と言えよう。なお、公園内には「モラエス像」「加納宗七像」「シムの記念碑」「日本近代洋服発祥地の碑」「ボーリング発祥の地の碑」といった明治時代の神戸を物語る記念碑がいくつかある。

場所：加納町6丁目4

◆日本近代洋服発祥地の碑

公園のやや北よりにある。洋服の型紙を石で立体的に表現したもの。神戸に近代洋服が紹介されたのは1869（明治2）年で、居留地の16番でイギリス人カペルが洋服店を開いたのがはじまりである。この碑は、1872（明治5）年の太政官発令「爾今礼装ハ洋服ヲ着用スル事」の布告百年を記念して1972（昭和47）年に建立が決まり、神戸洋服商工業協同組合により建てられた。



日本近代洋服発祥地の碑

◆加納宗七像

公園のフラワーロード側に旧生田川付替えに尽力をつくした加納宗七の像がある。背後にある大きな石を組み合わせた壁には、陸奥宗光（むつむねみつ）謹書の「加納宗七」の文字が彫られてある。



加納宗七像

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

東遊園地 加納町6丁目

◆モラエス像

公園北側区画の南西端に、モラエスの胸像がある。ウェンセスラウ・ジョセ・デ・モラエスはポルトガル人の文豪で、深く日本を愛し、明治後半に神戸に住んだ。神戸・大阪総領事として活躍するかたわら、こよなく愛した日本の風物を筆で西洋に紹介した。彼が日本のことを書いた書物のうち『茶の湯』という題の本だけが神戸で刊行されている。なお、この像は二科会会員長谷川雅司の作で1964（昭和39）年10月に建てられた。



モラエス像

◆A.C.シムの記念碑

モラエス像の近くにアレキサンダー・キャメロン・シムの記念碑が建っている。イギリス人のシムは居留地消防隊の功労者で、今も続く外国人スポーツクラブK R & A C（コーベ・レガッタ・アンド・アスレチック・クラブ）の創業者でもある。また、1885（明治18）年に彼の店・シム商会があった居留地18番で販売した日本最初のラムネ（レモネードからきているという）は爆発的なヒット商品となり、それ以後、「18番」がラムネの代名詞となった。阪神大震災で、この碑の建っている地面が陥没したため、碑そのものが傾いてしまった。



A.C.シムの記念碑

東遊園地 加納町6丁目

◆阪神・淡路大震災の記憶

シムの記念碑がある一角に「阪神・淡路大震災の記憶」と題した説明板が掲げられている。阪神・淡路大震災で震度7の激震に見舞われた東遊園地周辺も大きく地盤が動いた。そのため、この説明板がかけられている格子のフェンスも地盤に生じた約60cmの段差によって高さにずれが生じてしまった。普及の際、地震の激しさを後世に伝えるため、高さの違いをそのままにして残したものである。



阪神・淡路大震災の記憶

◆阪神・淡路大震災 慰霊と復興のモニュメント・1.17 希望の灯り

東遊園地内の南に「阪神・淡路大震災 慰霊と復興のモニュメント」がある。2000（平成12）年1月17日に除幕されたこの碑は、1995（平成7）年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災の記憶と復興の歩みを後世に伝えようと多くの人々の寄付で造られた。「慰霊 復興 連帯」をテーマに、地下には「慰霊と瞑想の空間」を設け、その壁には震災の犠牲者4743人（平成17年3月現在）の名前が刻まれている。

また、「1.17 希望の灯り」は大龍寺に保管されていた灯と、全国から集められた灯りをつ一つにして、鎮魂と希望を託しこの地で永遠に灯されている。



1.17 希望の灯り



阪神・淡路大震災慰霊と復興のモニュメント